

予定手術開始前1時間以内の予防的抗菌薬投与割合

目的

予定手術開始前1時間以内の予防的抗菌薬投与割合

分母

予定手術のうち予防的抗菌薬を投与した数

分子

加刀前1時間以内に予防的抗菌薬を投与した数

2023年度

	手術件数	1時間以内 抗菌薬投与	実施率
4月	559	554	99.1%
5月	584	577	98.8%
6月	575	570	99.1%
7月	570	565	99.1%
8月	645	640	99.2%
9月	562	555	98.8%
10月	553	549	99.3%
11月	554	545	98.4%
12月	589	580	98.5%
1月	523	520	99.4%
2月	577	570	98.8%
3月	620	611	98.5%
合計	6,911	6,836	98.9%

	手術件数	実施率
60分以内投与(※)	6,837	98.9%
65分以内投与	6,846	99.1%
70分以内投与	6,849	99.1%
80分以内投与	6,859	99.2%
90分以内投与	6,865	99.3%
120分以内投与	6,887	99.7%

※VCMおよびフルオロキノロンは2時間以内の投与を適切とした。

データ抽出内容

1. 分母の解釈: 周術期の感染予防として抗菌薬の予防投与が必要な手術で、対象となるのは血管・骨などの無菌部位(クラスI)、管理された明らかな汚染や感染のない消化管など(クラスII)の手術であり、消化管穿孔や開放性外傷を伴う緊急手術は除外する。基本的に予防投与が必要ない手術は対象外とする。2. 創分類の説明: ①清潔創(クラスI)とは、全く炎症のない非汚染創のこと。呼吸器・消化器・生殖器・感染のない尿路は含まれない。非穿通性(鈍的)外傷に対する手術の切開創はこの基準を満たせば本分類に含まれる。②準清潔創(クラスII)とは、気道・消化管・生殖管・尿路が制御された状態で開けられ、異常な汚染を伴わない手術の創のこと。具体的には、胆道・虫垂・膣・口腔の手術は、明らかな感染の証拠や手技の破綻が認められなければこの分類に含まれる。1時間かけて投与が必要なバンコマイシンとキノロンは2時間以内の投与を適切な実施としてカウントした。

データ分析コメント

2023年度の加刀1時間以内の投与率は98.9%となり、2022年度(98.4%)と比較して0.5%改善しました。改善した要因として、2019年8月より抗菌薬投与を「病棟管理」から「手術室管理(time out時の投与)」へ順次変更し、2023年度は手術室管理の割合が96.6%まで上昇したためと考えられます(2022年度は89.3%)。1時間以内に投与できなかった症例を精査し、さらなる改善に向けて活動しています。